美しい森林づくり全国推進会議

「伝えたい木の文化、残したい美しい森」
～美しい森林づくり推進国民運動～

アサヒビール株式会社の美しい森林づくり

アサヒビール株式会社は六〇年以上にわたって社有林である「アサヒの森」を守り続けてきました。これは「森を守ることは、本業を守ること」という共通認識があったためです。アサヒビールの森林づくりへの取組は「アサヒの森」からスタートして、水源地の森の保全活動、レクリエーションの森を活用した森のサポーター活動、企業の森での森林づくり活動など、多彩な活動へと拡大しています。

アサヒビール株式会社の森林づくりの取組は、今から六〇年以上前の一九四一年にまでさかのぼります。アサヒビールの前身である大日本麦酒が、ビールびんの王冠の裏地に使用しているコルクの輸入が戦争により途絶えることを懸念して、その代用となるアベマキの樹皮を確保するため、広島県下でアベマキが多く自生する一五カ所の森林を購入したのがその始まりでした。

コルクの輸入が途絶えることはありませんでしたが、二、一六五㌶におよぶ森林は以後社有林として維持・管理され、現在は四分の一が天然林の形で、残りはヒノキやスギなどの人工林として利用されています。天然林の中にはアベマキの純林が二〇㌶残されています。また、社有林からの用材生産量は広島県下の素材（スギ・ヒノキ）生産量の二割を占めるなど、人工林は年々生長を続けており、六〇年以上の時が過ぎる中で、「アサヒの森」と名づけられたこの社有林は、地球環境を大切にしたいと考えるアサヒビールの象徴とも言える存在にまでなりました。

多面的な活用が進む「アサヒの森」

「アサヒの森」は「森林に代表される豊かな自然なくしては、ビールなどの飲料の製造を継続することは不可能。森を守ることは、本業を守ること」との全社共通認識の下で育まれてきており、歴代の社長も就任時にはこの森を訪れ、記念植樹を行い、森の大切さを引き継いできました。

「アサヒの森」では、人工林については高性能林業機械を利用した列状間伐など活発な林業生産活動を行い、一方、天然林では森林環境教育など色々な取組を行っています。

二〇〇六年からは、地元の子どもたちに森の中での自然体験を通じて二酸化炭素の吸収など森林の果たしている役割を実感し、環境保全の大切さについて学んでもらう「アサヒ森の子塾」を開催しています。

二〇〇八年には、「アサヒの森」が一二、二〇〇㌧のCO_2（一般家庭三、〇〇〇世帯の年間CO_2排出量に

多くの参加者でにぎやかな森林づくり

相当）を吸収しているという第三者機関による証明を国内で初めて取得し、低炭素社会へむけた積極的な取組姿勢を企業として提示しました。
　また同年には美しい森林づくりを推進する覚書（近畿中国森林管理局）と協定（広島北部森林管理署）を締結し、持続可能な森林経営と子どもたちに向けた森林環境教育を「アサヒの森」において国有林と共同で進めています。
　本年に入ってからは、「文化遺産を未来につなぐ森づくりの為の有識者会議」の『文化材』創造プロジェクト」に参画する形で、「アサヒの森」のうち五・四ヘクタールの森林を、一五〇年生以上の大木に育てて将来の文化財の修理などに備える「文化材」に登録しました。

ヒノキ集成材の会議用テーブル

「アサヒ森の子塾」の風景

ボランティア活動も多彩に展開

アサヒビールの森林づくりへの取組は、このような「アサヒの森」だけの活動にとどまりません。
　二〇〇四年に四国工場が石鎚山系の「水源地の森」の保全活動に取り組むと、この活動は他の工場にも広まり、現在では全国九工場における森林づくりの取組へと拡大しました。
　また、アサヒビールは、国有林の「レクリエーションの森」オフィシャルサポーターとして森林づくりを支援しており、営業部門の社員がボランティアとして森林保全活動に取り組んでいます。現在、六つの地域で森のサポーター活動を展開しており、さらに明治の森箕面（近畿中国森林管理局）と工石山（四国森林管理局）でも協定の締結が予定されています。加えて、各都道府県が進める「企業の森」においても森林づくりの活動が進められています。「企業の森」はそのフィールドに参加企業のネーミングが行われており、「アサヒビールの森」が宮崎県と神奈川県の二箇所で誕生しました。

社員の自発的な取組を会社は支援

　同社の理事で社会環境推進部長を務める竹田義信氏は「『水源地の森』の保全活動や『レクリエーションの森』での森のサポーター活動、『企業の森』での森林づくり活動は全て社員の自主的な発意から動き始めたものです。社員の一人一人が水の大切さ、森の重要性を認識しているため活動が長続きします。社員のこうした活動への参加は本年は延べ千人に達しており、社員の三人に一人が参加している計算となります。社会環境推進部はこのような社員の自発的な社会貢献活動を支援しています」として、社員ボランティア活動に対するアサヒビールの企業としての姿勢を説明する一方で、「森林を守ろうとする意識の高まりに応えるため、『アサヒの森』から作られた会議用テーブルを本社に配置したり、社員の各机にヒノキのブロックを置くなど、身近に木を感じることが出来るよう工夫しています。お店に提供するPOP（販促）グッズなども『アサヒの森』から生産された木製のものを使い、エコ関連のイベントなどでは『アサヒの森』の割箸も提供しています。身近なところで木に親しみ、木を利用する。これが木や森林を大切にする意識に繋がっていくと思います」と、企業活動の一環である「アサヒの森」の活用方法を交えながら木づかい、森林づくりの考え方を語っています。
　アサヒビールでは、このほか「緑の募金」への寄付等も行っており、今後も様々な形で美しい森林づくりを進めていくこととしています。

アサヒビール社会推進部の竹田部長（写真左）と王（ワン）副主任

「アサヒの森」の中にある保護されたアベマキの天然林